

わせん  
**和船づくりの道具類**  
 (稻城市指定文化財)

稻城市東長沼2111  
 ☎0423-78-2111  
 発行 1993.10.20



完成した屋形船（久保井富蔵氏製作）

多摩川流域では、江戸時代から現代に至るまで、各種の和船（川船）が造られました。和船の種類は、屋形船、渡し船、漁船、砂利船、工事船などで、川が比較的浅いために、船底が平らで浅い船が普及しました。これらの和船は専門の船大工によって造られました。東長沼在住の久保井富蔵氏は、多摩川中流域では数少ない和船建造の船大工であり、和船づくりに使用した道具類を所有しています。これらは、17種類の道具と附属資料3種類で、船大工専用の特色をもった資料であり、多摩川流域の生活や文化を考えるうえで、欠くことのできない貴重な文化財といえます。

道具は、ノコギリ、ノミ、カンナ、ゲンノウを中心とする17種類で、それぞれの道具がその用途に合わせて細かく形を変えています。最も多くの形に分類できるのがノコギリで、材木を引き割る段階から、仕上げの段階に至るまで、6種類のノコギリが使われます。附属資料は、クギ、カスガイ、マキハダの3種類です。クギは、使用する部位により、大きさ・形態が異なり、2寸5分（約7.6cm）から9寸（約27cm）までの各種の船クギがつくられました。マキハダは、ヒノキの樹皮で、船の仕上げ段階で水漏れを防ぐ目的で使われます。



和船づくりの道具類と久保井氏

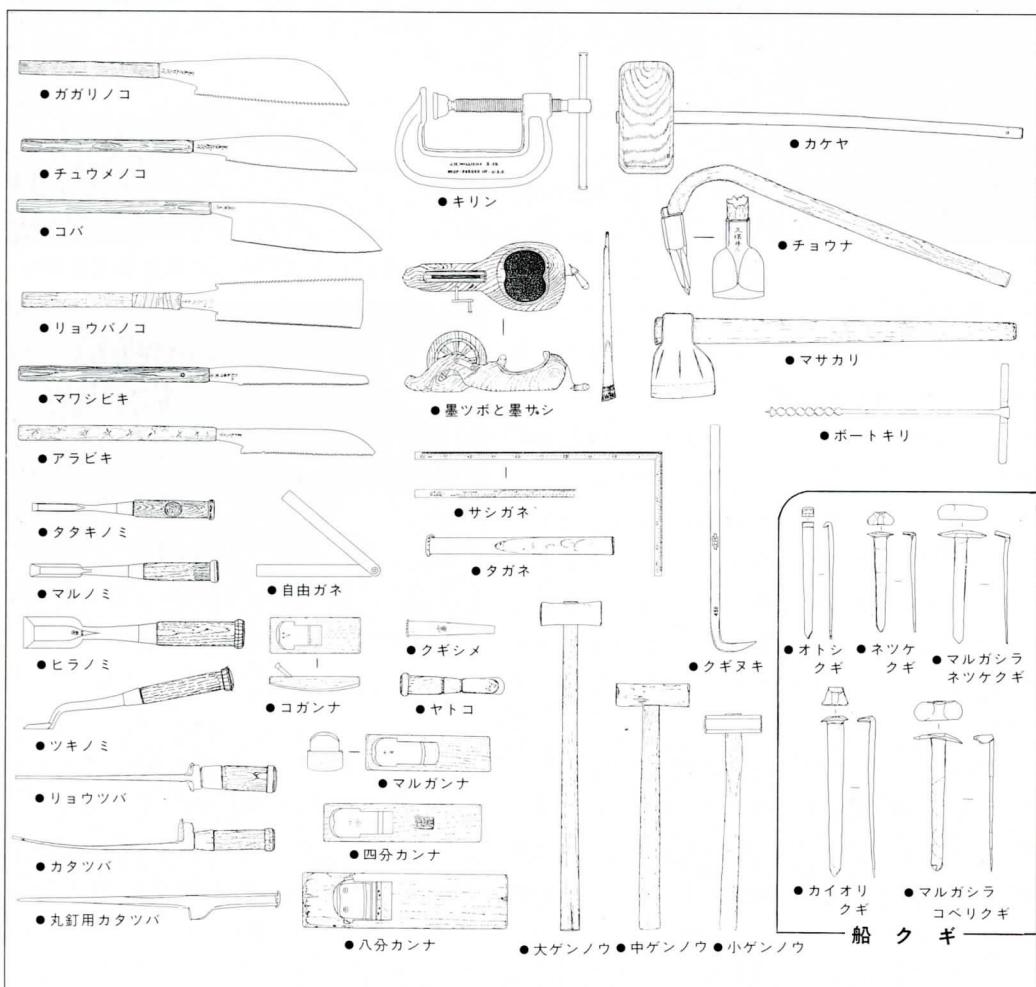
## 和船建造の道具

No.	名 称	用 途
1 ノ ギ リ 類	ガガリノコ	板挽き全般に用いる
	チュウメノコ	木取り段階の粗いスリアワセに用いる(中目鋸)
	コバ	仕上げのスリアワセに用いる(スリアワセ/コギリともいう)(細歯鋸)
	リョウバノコ	イケスや埋木など、細かいものを作る時に用いる(両歯鋸)
	マワシビキ	曲線を挽く時や、細かい仕事をする時に用いる
2 ノ ミ 類	アラビキ	横挽き専用のノギリ
	タタキノミ	釘穴を切る時に用いる
	ヒラノミ	釘穴を切った後に、その木くすをさらうに用いる(平のみ)
	マルノミ	丸いものを彫る時に用いる(丸のみ)
3 ツ バ ノ ミ 類	ツキノミ	大船のカンラを切る時に用いる
	リョウウツバ	船釘の釘穴を開けるのに用いる。先穴用と前穴用の2種類有り(両つば)
	カタツバ	船釘を打つ時、釘穴を再確認する時に用いる(片つば)
4 カ ン ナ 類	丸釘用カタツバ	
	四分カンナ	木口にかけ、挽き痕を削りとり、なめらかに仕上げる(平がんな)
	八分カンナ	四分カンナをかけた面を、さらに細かく仕上げる(平がんな)
	マルガンナ	丸い部分を削る。内弯用と外弯用の2種類有り(丸がんな)
5 ゲ ン ノ ウ 類	コガンナ	平がんなの小さいもので、曲面等に用いる(小がんな)
	大ゲンノウ	馬船や工事船などの大型船用
	中ゲンノウ	漁船や伝馬船などの小型船用
	小ゲンノウ	マキハダを埋め込む時に用いる

No.	名 称	用 途
6	チヨウナ	材木の表面を削る時に用いる
7	マサカリ	材木を引き割ったり、削り落とす時に用いる
8	墨ツボ	墨サンとセットで使い、細かい線を引いた
9	クギヌキ	パールともいう。大・中・小の3種類有り。釘ぬきや釘まげに用いる
10	クギシメ	船クギを打った後に、さらに押し込むために用いる
11	タガネ	釘ぬきや、金属板の裁断用に用いる
12	ヤトコ	マキハダを板のすき間に埋め込む時に用いる
13	サシガネ	曲尺で、寸法をはかる時に用いる
14	自由ガネ	角度を決める時に用いる(自作品)
15	ポートキリ	板をとめ付けるボルト孔をあける時等に用いた
16	キリン	万力と同じ機能の道具
17	カケヤ	川船建造時に使う杭を打つ時に用いた

## 附属資料

No.	名 称	用 途
1	船クギ	使用する部位により、大きさ・形態が異なり、2寸5分~9寸まであった。 ①オトシクギ ②ネツケクギ ③マルガシラネツケクギ ④コベリクギ ⑤マルガシラコベリクギ ⑥カイオリクギ
2	カスガイ	板と板を留める時に用いる。大・中・小の3種類有り
3	マキハダ	ヒノキの樹皮で、水漏れ防止のために板のすき間に埋め込んだ



和船建造の道具類（縮尺は各道具により異なります）